ＲＴ６　ハイリスク児サポート記録

＜概要＞

現在、川崎大師会を中心に、ハイリスク児サポート事業を行っている。その背景としては、川崎市の３才児の dmf は１本以下であり、う蝕に関しての問題はない。そこで次に取り組むテーマとしてハイリスク児のサポートがあがった。

事業に取り組むに当たっての4つの条件

- 長期展望を持って取り組む
- 住民参加で進めていく
- ボトムアップ型で事業を展開する
- 歯科医師会・行政・住民との協議をはかりながら取り組む

事業目標

中期的には幸区の若い母親の育児不安の軽減に行政、歯科医師会、地域住民が一体となった口腔保健事業を通して寄与する事にある。

長期的には高齢者の口腔に関わる諸問題にも取り組み、少子高齢化対策としての住民のQOLの向上に取り組む対象とする。

中期目標の事業で取り組む対象・・乳幼児（０ー５歳児）とその保護者を対象とする

事業で取り組むテーマ

乳幼児期に発生している問題は以下の4点であると考えられる

1. 虫歯の発生
2. 歯並びに関する心配や不安
3. 摂食障害
4. ハイリスク児に絡む口腔の諸問題

あくまでも仮説であり既存のデータやアンケートにより確認する必要がある。

事業の期間

2005年度
　アンケートの開発・調査・分析
2006年度
　三者によるワークショップにより計画を策定
2007年度
　計画の実施
2008年度以降
　事業の推進と評価並びに高齢者への取り組みを開始する

期待される成果

事業の結果、口腔に関わる育児不安の軽減される。

事業を通してMIDORIモデルとOPPAモデルを使う事ができるようになる。(OJT)

行政、歯科医師会、住民の三者のネットワークが構築され、さらなる展開が期待できる。

Copyrightc2007 Well-Being(NPO),All rights reserved

以上の工程表を策定しいざ、始めていく事にチームの立ち上げ歯科医師会・行政から数名参加し定期的に開催する会議を開くことに。会議名を“推進プロジェクト会議”に決定！

＜実施＞

繰り返しをしたことで‥

ボトムアップ型の理解を得る
川崎市の現状からハイリスク児に
フォーカスを当てる事が必要なこと
に話がまとまる。

KJ法の結果から次のステップへ

FSPD３＆５型のアンケート用紙から
必要とされない質問を削除
KJ法から得られた物から、質問を作
成し既存のアンケートに加える事に。

と、順調に行きかけたが・・・

無惨にもスタートにもどる

2006年4月
新しい課長、係長のもと
全てが最初からとなる。

ここから2年あるんだ！
と、皆で励まし合う。

このようなケースを皆さん経験してますか？

私達は、迷走、暴走‥と全てを体験して
泥沼にはまってます。
皆さんの解決方法から迷える
子羊経ちにアイデアを頂ければと。

Copyrightc2007 Well-Being(NPO),All rights reserved

＜意見交換＞

ハイリスク児についての具体的なサポートについてというよりは、行政、歯科医師会との関わりという部分に主眼が置かれ以下のような意見があった。

・行政は、縦の繋がりは強いが横の繋がりが弱い
・小さい町であれば、議員や町長を巻き込むことでうまくいく事がある。しかし大きな所では、しない方がいいのではないか。
・行政と関わるときは、きちんと数字を提示した方がよい。
・歯科医師会との関わりも今後の課題

Copyrightc2007 Well-Being(NPO),All rights reserved